

## 【漁況】 [マアジ]

### 1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のマアジの漁獲量は、1965年の53万トン进行ピークに減少傾向となり、1980年には5万4千トンとなりました。

その後増加傾向に転じ、1996年には33万トンに増加し、1998年までは30万トン台で推移しましたが、その後再び減少傾向に転じ、2022年は9.9万トンとなりました。

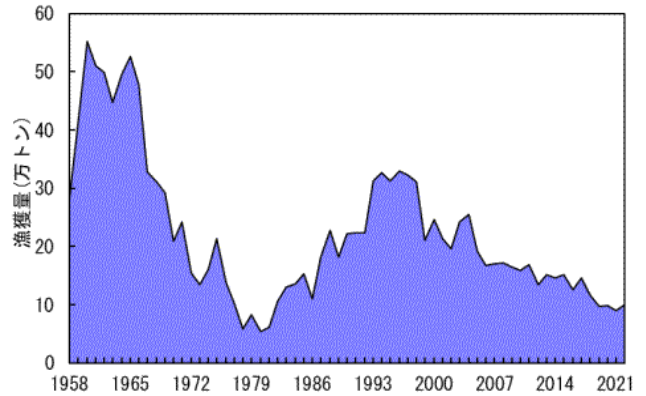


図 全国のマアジ漁獲量の推移

### 2. 県内の2024年10～12月期の漁況の経過

#### 【4港計（阿久根、枕崎、山川、内之浦）】

北薩海域では、10月に阿久根沖、串木野沖で漁場が形成されました。銘柄別では、小・豆・仔銘柄（0歳魚：2024年生まれ）が主に漁獲されました。

薩南海域では、10月～11月にかけて野間池で漁場が形成されました。銘柄別では、小・豆銘柄（0歳魚：2024年生まれ）が主に漁獲されました。

4港計のまき網では1,126トンの水揚げで、前年比361%、平年比201%でした。

### 3. 県内の2025年1～3月期の見とおし

漁獲主体：小銘柄以下（1歳魚：2024年生まれ）

来遊量：前年を下回り、平年並み

（根拠）

漁獲主体は近年の漁獲動向から予測しました。また、来遊量は、直近の漁模様と正の関係があることから、前年を下回り、平年並になるものと考えられます。

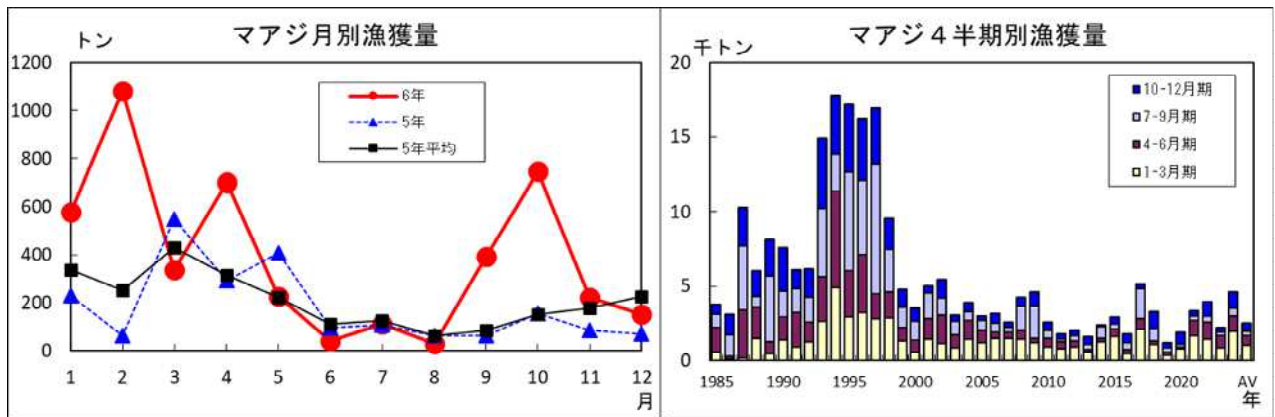


図 マアジまき網漁獲量変化（4港計）

※平年値は過去5年の平均値（AV）、2024年12月18日までの水揚げ量を使用（以下同じ）

## [サバ類]

### 1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のサバ類の漁獲量は、1978年の160万トン进行ピークに年々減少し、1991年には26万トンとなりました。

1993年から増加に転じ1997年には85万トンとなりましたが、2002年には28万トンまで減少しました。

2006年に65万トンまで増加したあと減少傾向となり、2022年は32万トンとなりました。

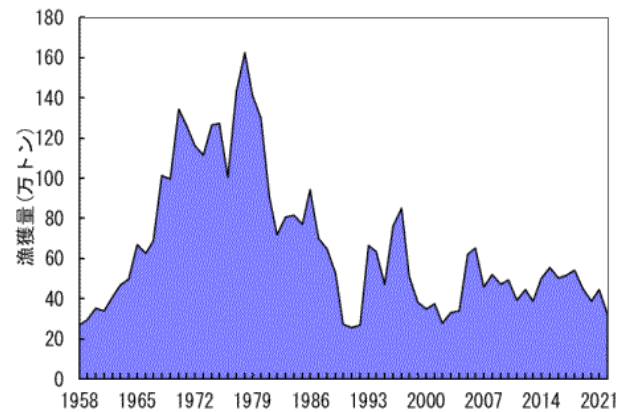


図 全国のサバ類漁獲量の推移 年

### 2. 県内の2024年10～12月期の漁況の経過

#### 【4港計（阿久根、枕崎、山川、内之浦）】

北薩海域では、10月に天草西沖から串木野沖にかけての海域で漁場が形成されました。銘柄別では、豆銘柄（0歳魚：2024年生まれ）が主に漁獲されました。

薩南海域では、期間を通じて湯瀬、馬毛島沖で、また、11月には野間池沖で漁場が形成されました。銘柄別では、前者でゴマサバ中銘柄（3歳魚：2021年生まれ）が、後者で豆銘柄（0歳魚：2024年生まれ）が主に漁獲されました。

4港計のまき網では、2,124トンの水揚げで、前年比353%、平年比113%でした。

### 3. 県内の2025年1～3月期の見とおし

漁獲主体：ゴマサバ中銘柄以下（1～3歳魚：2022～2024年生まれ）

来遊量：前年を上回り、平年並み

（根拠）

漁獲主体は近年の漁獲動向から予測しました。また、来遊量は、直近の漁模様と正の関係があることから、前年を上回り、平年並と考えられます。

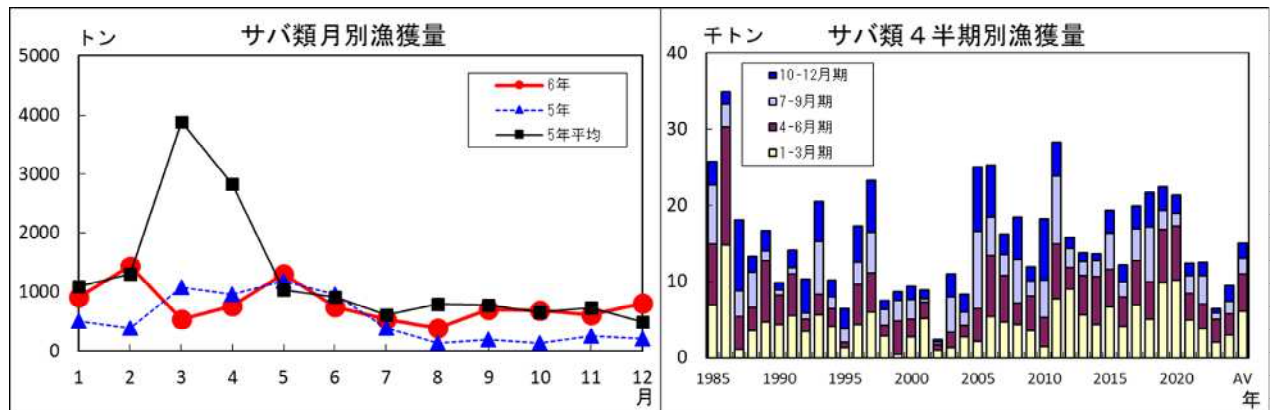


図 サバ類まき網漁獲量変化（4港計）

# [マイワシ]

## 1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のマイワシの漁獲量は、1950年代から1960年代にかけての不漁期の後、1973年頃から増加の傾向が見られ、1988年には449万トンまで増加しました。

1989年以降、全国的に漁獲量は減少を続け、2002～10年までは、10万トンを下回る低い水準で推移していましたが、2011年以降は10万トン以上に増加しました。

さらに、2013年以降は20万トンを超える漁獲が続き、2022年は64万2千トンとなりました。

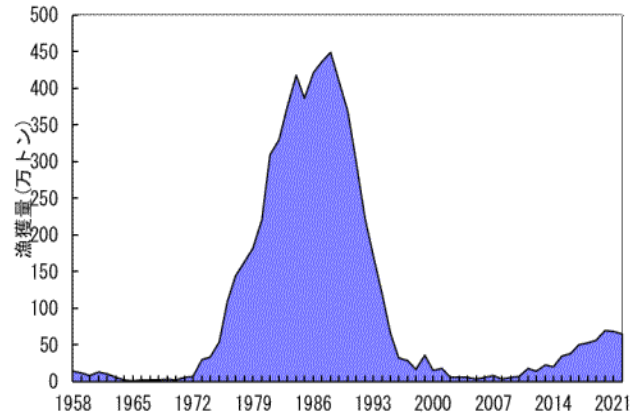


図 全国のマイワシ漁獲量の推移 年

## 2. 県内の2024年10～12月期の漁況の経過

【4港計（阿久根、枕崎、山川、内之浦）】

北薩海域のまき網では、10月に阿久根沖、甑東で漁場が形成されました。11月には甑東、天草西沖で漁場が形成されました。

薩南海域のまき網では、10月に野間池沖、枕崎沖で漁場が形成されました。

4港計のまき網では、中～小羽（0歳魚：2024年生まれ）主体に689トンの水揚げで、前年比34%、平年80%でした。

北薩海域の棒受網では、中～小羽（0歳魚：2024年生まれ）主体に9トンの水揚げで、前年比28%、平年比15%でした。

## 3. 県内の2025年1～3月期の見とおし

漁獲主体：中羽～大羽（1～3歳魚：2022～2024年生まれ）主体

来遊量：前年並で、平年を上回るでしょう。

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

前期の漁況を基に予測すると、今期の来遊量は前年並で、平年を上回ると考えられます。

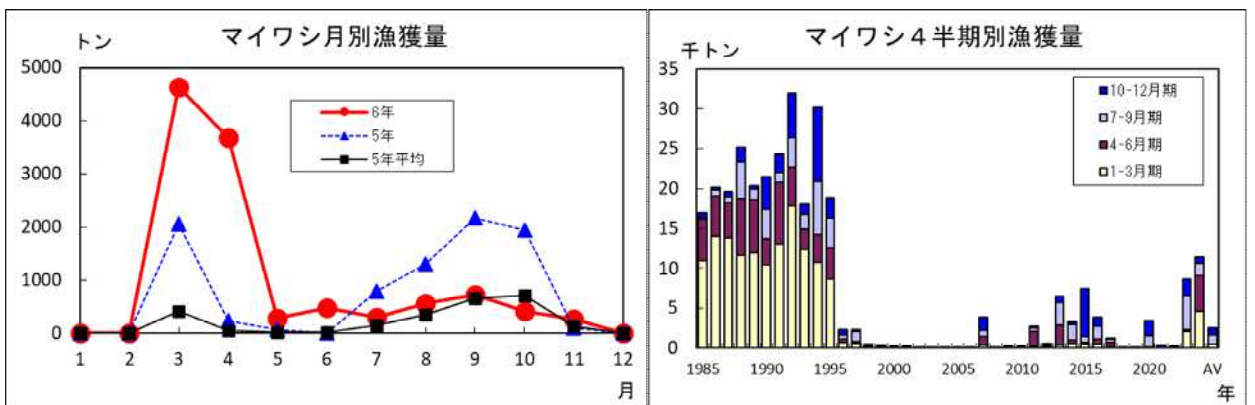


図 マイワシまき網漁獲量変化(4港計)

# [ウルメイワシ]

## 1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のウルメイワシの漁獲量は、1950年代以降、増減を繰り返しながらも増加傾向を示し、1994年に6万8千トンとピークを迎えた後、減少傾向に転じ2000年には2万4千トンまで減少しました。

2003年以降は再度増加傾向に転じ、2016年は9万8千トンで1958年以降では最高の漁獲量となりました。2022年の漁獲量は6万4千トンとなりました。

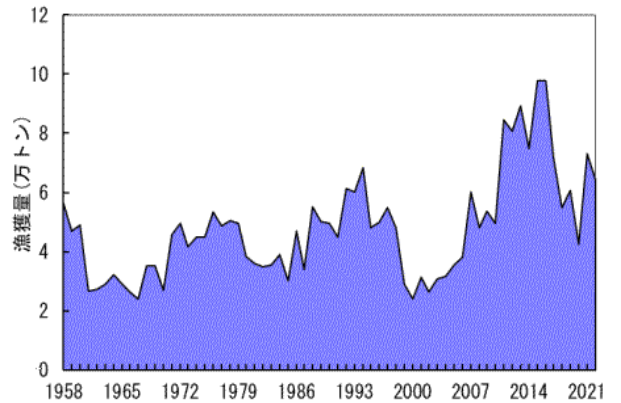


図 全国のウルメイワシ漁獲量の推移

## 2. 県内の2024年10～12月期の漁況の経過

【4港計（阿久根、枕崎、山川、内之浦）】

北薩海域のまき網では10月に阿久根沖、串木野沖に漁場が形成されました。11月には甑東、天草西沖で漁場が形成されました。12月には阿久根沖、甑東で漁場が形成されました。

薩南海域のまき網では、10月に野間池沖、枕崎沖に漁場が形成されました。11月には野間池沖、坊津沖で漁場が形成されました。12月には枕崎沖で漁場が形成されました。

4港計のまき網では、中羽（0歳魚：2024年生まれ）主体に1187トンの水揚げで、前年の58%及び平年の82%でした。

北薩海域の棒受網では、小羽～中羽（0歳魚：2024年生まれ）主体に169トンの水揚げで、前年の88%及び平年の97%でした。

## 3. 県内の2025年1～3月期の見とおし

漁獲主体：中～大羽（1～2歳魚：2023～2024年生まれ）

来遊量：前年を下回り、平年並でしょう。

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

前期の漁況を基に予測すると、今期の来遊量は前年を下回り、平年並と考えられます。

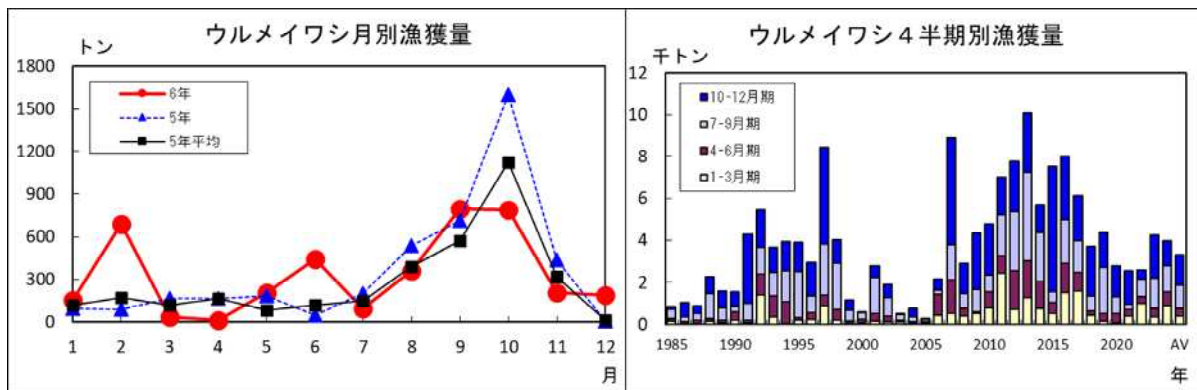


図 ウルメイワシまき網漁獲量変化（4港計）



## [カタクチイワシ]

### 1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のカタクチイワシの漁獲量は、1973年まで30万トン台で変動していましたが、1974年以降減少傾向となり1979年には13万トンとなりました。

その後は大きく増減を繰り返しながら増加傾向にあり、2003年は過去最高の53万5千トンとなりましたが、その後減少傾向に転じ、2022年は12万3千トンとなりました。

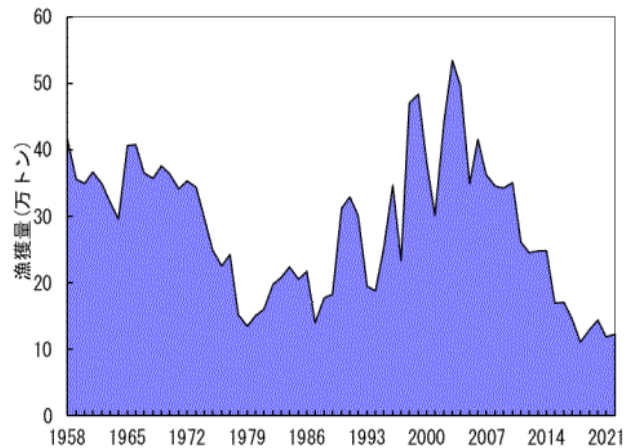


図 全国のカタクチイワシ漁獲量の推移

### 2. 県内の2024年10~12月期の漁況の経過

#### 【4港計（阿久根，枕崎，山川，内之浦）】

北薩海域のまき網では、11月に野母崎沖，天草西で漁場が形成されました。

薩南海域のまき網では、11月に甌東で漁場が形成されました。

4港計のまき網では、中～大羽（1歳魚：2023年生まれ）主体に232トンの水揚げで、前年の84%及び平年の60%でした。

北薩海域の棒受網では、まとまった水揚げはありませんでした。

### 3. 県内の2025年1~3月期の見とおし

漁獲主体：中～大羽（1～2歳魚：2023～2024年生まれ）

来遊量：前年，平年並でしょう。

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過から予測しました。

前期の漁況を基に予測すると、今期の来遊量は前年・平年並と考えられます。

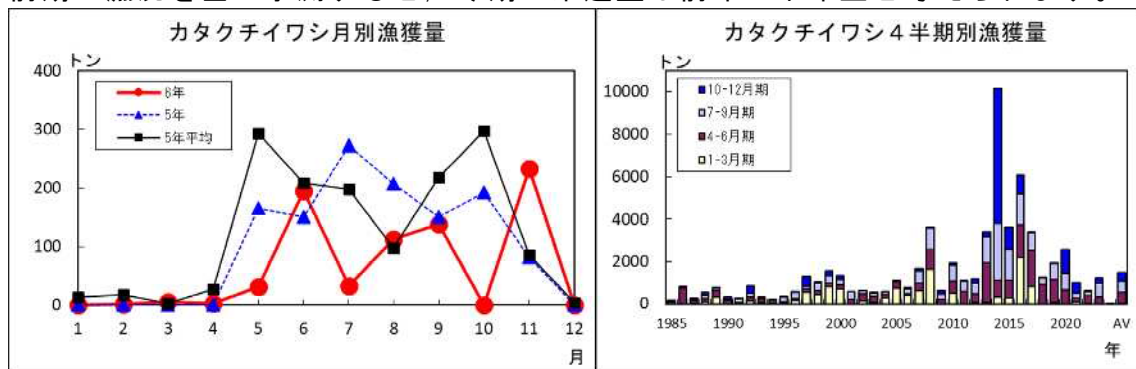


図 カタクチイワシまき網漁獲量変化（4港計）

[イワシ類参考資料]

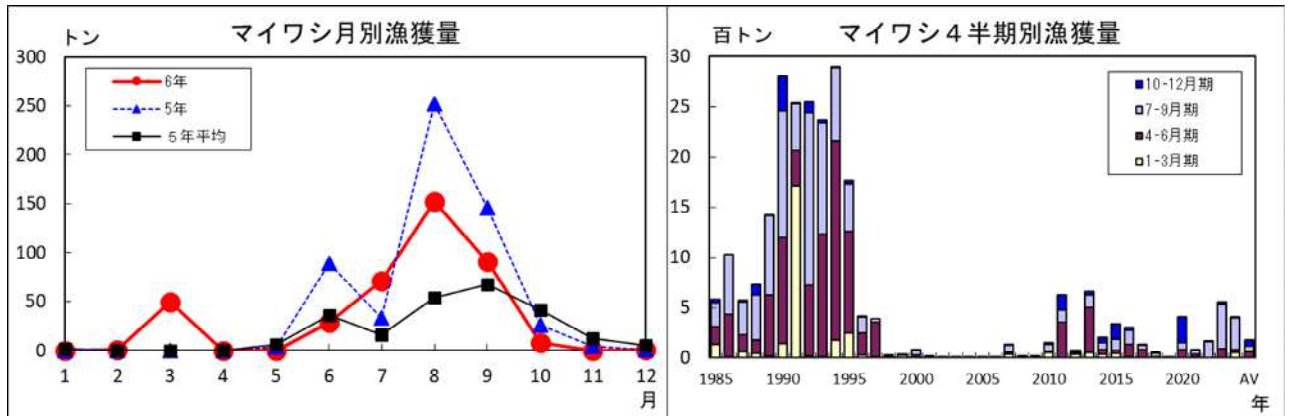


図 マイワシ棒受網漁獲量変化(阿久根港)

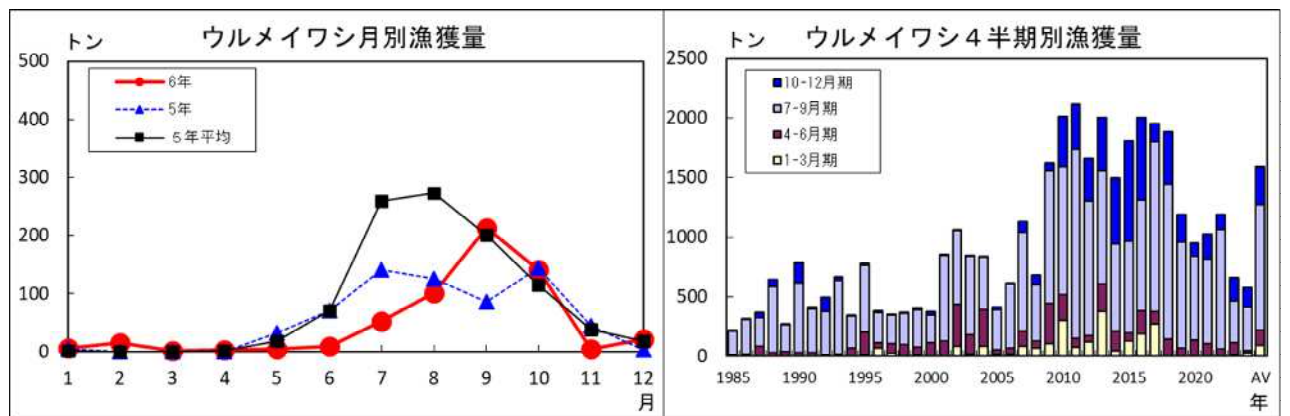


図 ウルメイワシ棒受網漁獲量変化(阿久根港)

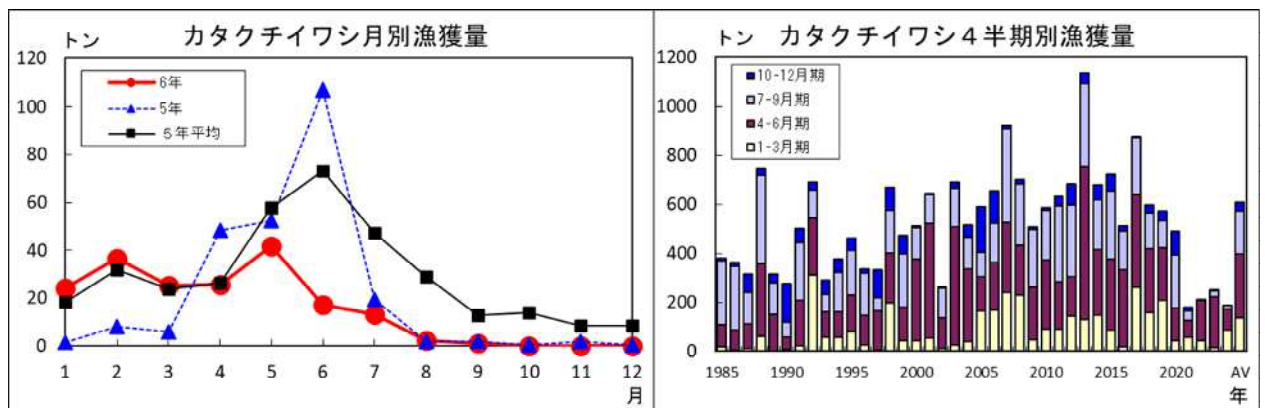


図 カタクチイワシ棒受網漁獲量変化(阿久根港)

# [シラス]

## 1. 経年経過

バッチ網漁業の漁獲量は、西薩海域では、1999年の5,450トンピークに減少傾向を示し、2002,2003年と1,000トンを下回り低調に推移しました。その後、2004年は3,507トンと比較的好調に推移しましたが、2005年以降減少傾向を示し、2022年は168トンと過去最低の漁獲量となりました。

志布志湾海域では、2007年まで増加傾向を示しましたが、その後、1,000トン前後で増減を繰り返しながら推移し、2022年は308トンと過去最低の漁獲量となりました。

## 2. 2024年9～11月の漁況の経過

西薩海域ではまとまった水揚げがありませんでした。

志布志湾海域では、カタクチシラス主体に16.9トンの水揚げで、前年の23%、平年の7%でした。

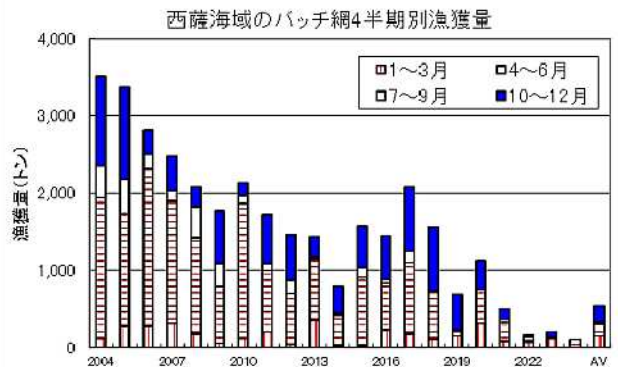
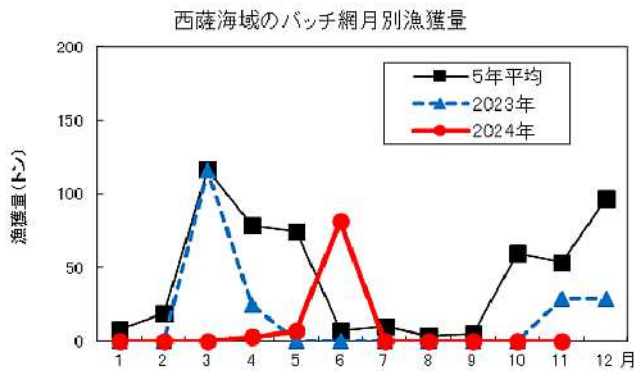


図 西薩海域バッチ網漁業の漁獲量変化(2漁協計)

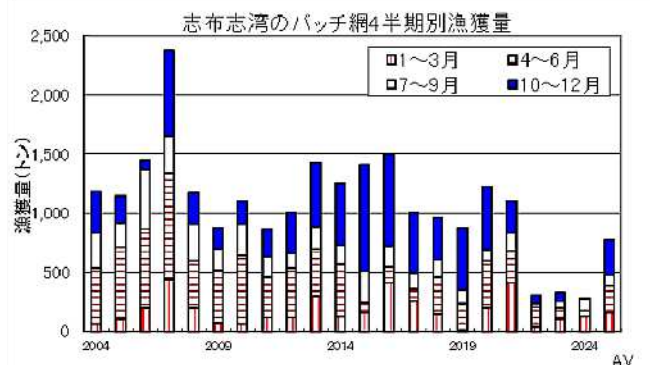
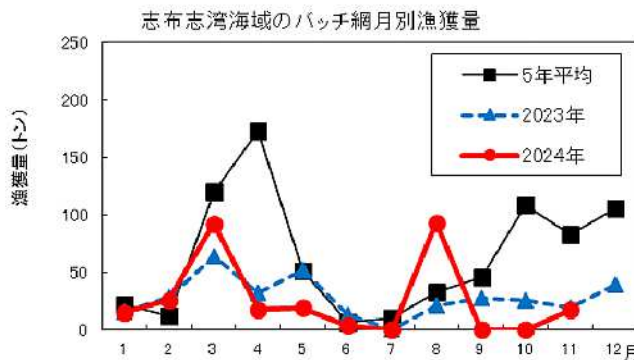


図 志布志湾海域バッチ網漁業の漁獲量変化(2漁協計)

※平年値は過去5年の平均値(AV)の水揚量を使用

## [ムロアジ類]

〈クサヤモロ，ムロアジ，モロ（水産技術開発センター調べ：4港計）〉

### 1. 経年経過

ムロアジ類の漁獲量は、1990年の21,700トン进行ピークに急減し、1994年以降は1,500トンから5,000トンの間での推移しており、2023年は1,964トンとなりました。

### 2. 県内の2024年10～12月期の漁況の経過

10月に宇治及び湯瀬で、11月に津倉瀬から屋久島にかけた海域で、12月に馬毛島から屋久島にかけた海域で漁場が形成されました。銘柄別では、クサヤモロ豆・小・中小銘柄が主に漁獲されました。

4港計のまき網では657トンの水揚げで、前年比60%、平年比44%でした。

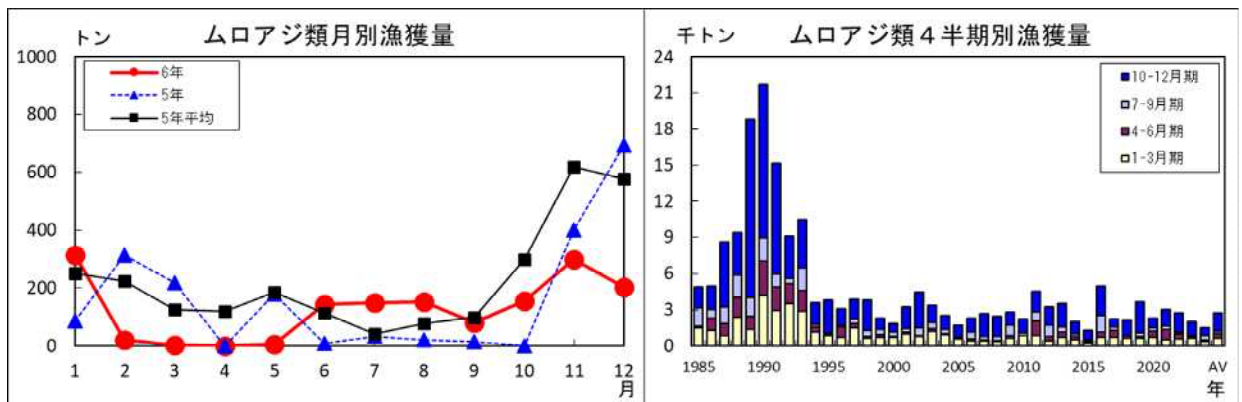


図 ムロアジ類まき網漁獲量変化(4港計)

〈オアカムロ（水産技術開発センター調べ：4港計）〉

### 1. 経年経過

オアカムロの漁獲量は、1989年の5,300トン进行ピークに一旦減少し、1995年に4,400トンと再度ピークを迎えた後は減少傾向となり、2007年には700トンとなりました。2008年に2,300トンまで増加した後は700～2,400トンの間で推移し、2023年は353トンでした。

### 2. 県内の2024年10～12月期の漁況の経過

12月に屋久島沖で漁場が形成されました。銘柄別では、豆・中小銘柄が主に漁獲されました。

4港計のまき網では217トンの水揚げで、前年比272%、平年比142%でした。

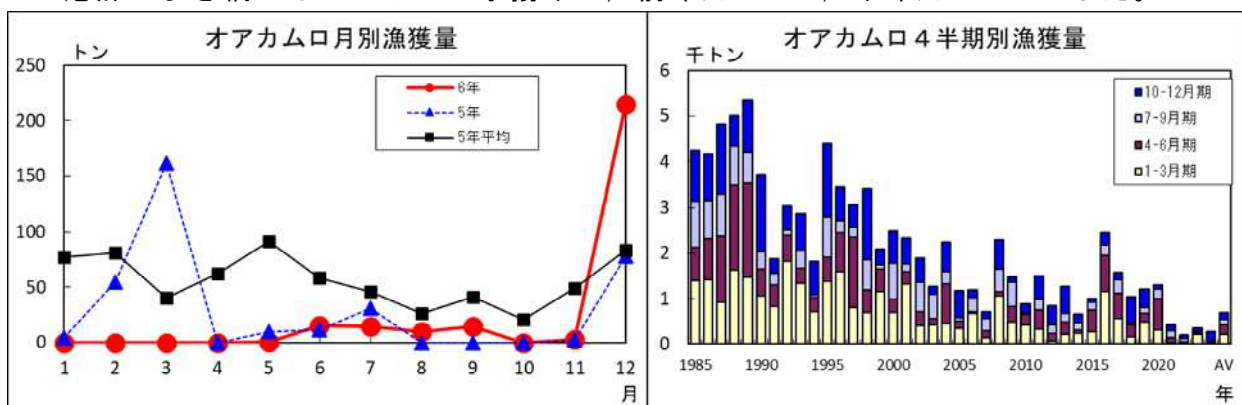


図 オアカムロまき網漁獲量変化(4港計)



## [マルアジ]

### 1. 経年経過

マルアジの漁獲量は、1987年から1989年に1,500トンを超えるピークがあり、その後低調に推移し、2000年から2003年に再度ピークを迎え2003年には3,150トンと最高を記録しましたが、2004年以降は低調に推移し、2023年は115トンとなりました。

### 2. 県内の2024年10～12月期の漁況の経過

10～11月にかけて甑島から串木野沖にかけた海域及び野間池沖で漁場が形成されました。銘柄別では、豆銘柄が主に漁獲されました。

4港計のまき網では204トンの水揚げで、前年比5189%、平年比421%でした。

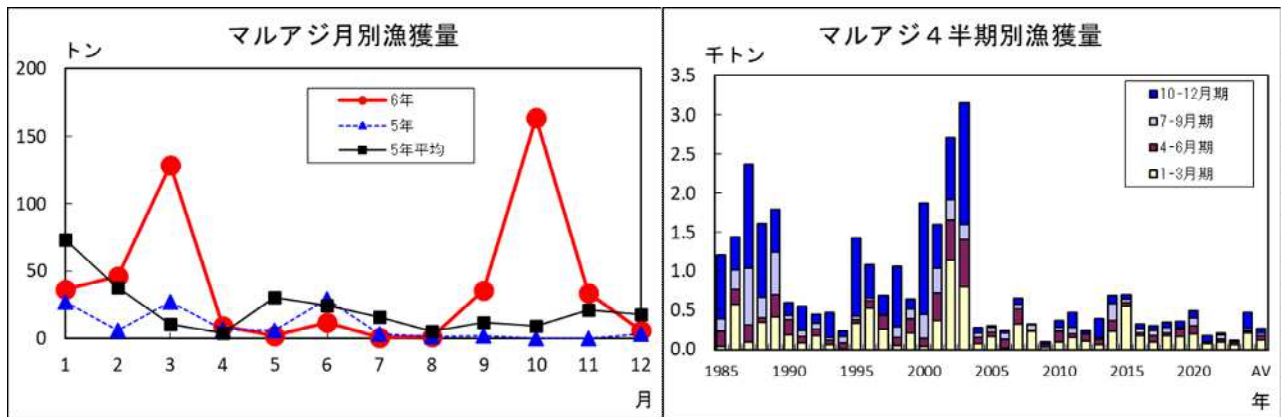


図 マルアジ（アオアジ）まき網漁獲量変化（4港計）